

手数料の課金方法（負担方式）について

【課金媒体（指定袋方式とシール方式）について】

指定袋方式・・・ごみを排出する際、行政の定めたごみ袋を使用するもので、その販売価格にごみ処理費用が賦課された仕組み。

シール方式・・・ごみ処理費用の賦課された指定シールを購入し、ごみを排出する際にごみ袋（自由袋あるいは推奨袋）に貼付する仕組み。

	指定袋方式	シール方式
取扱方法	<ul style="list-style-type: none"> 従来からも指定袋を使用しているため、取扱いに混乱は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> シール方式に馴染みがない。 シール貼付に手間がかかる。 小さいため、持ち運びに便利。 紛失する可能性が高い。
ごみ減量意識	<ul style="list-style-type: none"> ごみを減らせば使用のごみ袋も減るため、ある程度のインセンティブが働く。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみを減らせば使用するシールも減るため、ある程度のインセンティブが働く。
作成コスト	<ul style="list-style-type: none"> シール方法と比べると高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定袋方法と比べると安い。 しかし、偽造防止や剥がれ落ち対策を考慮すると、袋方式より高くなる場合もある。
収集作業への影響	<ul style="list-style-type: none"> 指定袋かどうかの見分けが容易。 従来の収集作業効率に大きな変化はない。 	<ul style="list-style-type: none"> シールが貼付されているかの確認作業が必要なため、作業効率が低下する。
不正の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 偽造されにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 偽造が容易に行われる可能性がある。
袋の規格等	<ul style="list-style-type: none"> ごみ種の判別が容易。 容量（基準）が明確で、ごみ量に応じた処理費の負担が実感できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみ種の判別が困難。（中身が見える袋に限定する必要あり） 容量（基準）が確認しづらく、ごみ量に応じた処理費の負担を実感しづらい。
全体のごみ排出量	<ul style="list-style-type: none"> 指定袋自体がごみとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> シールおよび自由袋あるいは、推奨袋自体がごみとなる。